

教科	科目名	学年	単位数	必修 選択
数学	数学 I	1	3	必修

到達目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------------	---

年間スケジュール

期間	単元・項目名・実施内容など	受講に対してのアドバイスなど	備考
1学期中間	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	<ul style="list-style-type: none"> * 式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 * 中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。 	
1学期期末	第3節 一次不等式 6 不等式の性質 7 一次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> * 不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 * 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 	
2学期中間	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係	<ul style="list-style-type: none"> * 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 * 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 	
2学期期末	7 2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> * 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。 * 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 	
学年末	4 正弦定理 5 余弦定理 第2節 三角形への応用 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 6 仮説検定	<ul style="list-style-type: none"> * 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。 * データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。 	

評価方法と評価のポイント	知識・技能・・・定期考査、小テスト 思考・判断・表現・・・定期考査、課題提出、学習活動への参加態度 主体的に学習に取り組む態度・・・小テスト、課題提出、学習活動への参加態度
---------------------	--

教科からのアドバイス

必ず復習を行い、授業内容を一度振り返ることが大切。傍用問題集を活用して、常に問題演習に取り組む。また、わからない点が出てきたときは、すぐに友達や教員に質問し、一度は理解することに努める。

一問でも多くの問題を解こう！